

# わたしのまちのPR

ピーアール

## 熊取町編



熊取町は、大阪府の南部・泉南郡にある東西約4.8km、南北約7.8km、総面積17.23km<sup>2</sup>（大阪府の面積の約0.9%）の木の葉状の形をした町で、東は貝塚市、西は泉佐野市と接しています。

町の東方には和泉山脈の山麓が広がり、山脈に源を発する雨山川・住吉川は町の中央部を流れ大阪湾に注いでいます。気候は、瀬戸内気候区に属しているため、温暖で雨量も少なく、快適で暮らしやすい気候風土です。

交通面ではJR阪和線が町の西端を通っており、主要道路は国道170号（大阪外環状線）、府道泉佐野打田線、府道泉佐野熊取線があります。

この熊取町の魅力や特色について、企画財政課参事の東野さんにお話を伺ってきました。



本日はどうぞよろしくお願ひします。

早速ですが、熊取町の歴史を教えてくださいませんか。

よろしくお願ひします。

「熊取」という地名が公式の記録としてはじめて歴史の文献に登場したのは、平安時代初期に編さんされた『日本後紀』で、桓武天皇が延暦23年（804年）に「熊取野」で遊獵されたと記載されています。また、平安時代末期には、後白河法皇が熊野詣の途中に五門の中家に立ち寄られ、行宮（仮設の御所）としたという伝承が残っています。

江戸時代に岸和田藩に属していた熊取の村々は、明治時代に入ると、大久保・五門・紺屋・野田・七山・小垣内・久保・小谷の8か村が、明治22年（1889年）の町村制施行により合併し、熊取村が成立しました。またこの時代には農業に加え、織物業も盛んになり、昭和に入ると綿スフ織物やタオル生産を中心とした繊維産業が発達してきました。

その後、昭和26年（1951年）11月3日に町制を施行し現在に至っています。

昭和38年（1963年）に京都大学原子炉実験所（以下「実験所」）が設置され、翌年には熊取駅が快速停車駅となったことで、丘陵地を中心に大規模な住宅開発が活発となり、人口も急増し、大都市近郊の良好な住宅都市へと変貌してきました。現在は、約4万4千人の人たちが、熊取町に住んでいます。

さらに、昭和60年（1985年）以降、大学が相次いで開校し、現在、関西医療大学、大阪観光大学、大阪体育大学があり、大阪府内でも有数の学園文化都市となっています。

熊取駅前



熊取町のおすすめスポットを教えてくださいませんか。

はい。まず、町の南部に、風光明媚な奥山雨山自然公園があります。

約130ヘクタールの広大な敷地には、アカマツやヒノキなどが豊かに茂っています。公園内にはハイキングコースが整備されており、身近に自然と触れ合いながら、ハイキングを楽しむことができます。また、奥山雨山自然公園には2ヶ所の展望台があり、

奥山雨山自然公園



和泉葛城山系や関西国際空港などの雄大な眺望を楽しむことができます。

奥山雨山自然公園にある永楽ダム周辺には、数多くの桜が立ち並び、開花シーズンには、毎年、多くの人でにぎわいます。また、永楽桜まつりが開催され、期間中は広場に提灯が吊られるなど、桜の優美な姿を堪能できます。

この奥山雨山自然公園は、大阪みどりの百選と水源の森百選に選出されています。

また、人々の暮らしを支えるため池を、水と緑に囲まれた親水空間として整備した長池オアシスがあります。もともとは室町時代に築かれた農業用ため池なのですが、大阪府のオアシス構想の下、周辺住民も含めたワークショップを重ねて整備を進め、平成12年度に完成しました。

夏（7月頃）には、池の一部に作られた浅瀬の水生植物帯は、蓮や睡蓮の花咲く見事な風景となり、毎年、「花と水辺の写真展」が開催されます。

また、秋（10月か11月）には、長池オアシスとその周辺施設を活用した「長池オアシスふれあい祭り」が開催されます。子どもたちが楽しめるイベントが満載で、多くの人でにぎわいます。

長池オアシス



このような、豊かな自然をうまく生かしたイベントのほかにも、長池オアシスを、小学生がため池について学ぶ総合学習の場としたり、「オアシス農園」（貸し農園）を住民と農とのふれあいの場としたり、池の周りの遊歩道やボードウォークが住民の皆さんの健康づくりや憩いの場となるなど、幅広く活用されています。

なお、長池オアシスは、熊取を代表する憩いのスポットとして、大阪ミュージアムのベストセレクションにも選ばれました。

次に、熊取町の歴史を感じさせてくれる建物を教えていただけますか。

はい。熊取町には、歴史的建築や見応えのある建

築物がたくさんありますが、なかでも、江戸時代初期に建築された民家である中家住宅はおすすめです。

江戸時代に隆盛を極めた中家の住宅で、主屋は入母屋造、茅葺き、妻入りで、周囲に本瓦葺の庇をめぐらしている立派なものです。特に土間は近畿地方でも最大規模のもので、寺院の庫裏や武家の台所を思わせます。中家住宅は、現在でも広い敷地を占めていますが、江戸時代後期の古図によると、屋敷構えは今よりもはるかに大きいものだったようです。

先ほど、奥山雨山自然公園の春の美しさについて触れましたが、中家住宅でもきれいな桜を見ることができます。桜の咲くころには、中家住宅の白壁に囲まれた小さな窓から、鮮やかな桜を、まるで額縁に切り取られた一幅の絵のように見ることができます。

この美しい春の中家住宅で、毎年「春のお茶会」が開催されています。30畳ほどもある広いダイドコロ（板の間）でのお点前や、白壁の蔵を背景にした野点、和紙人形の展示など、毎年趣向を凝らして開催されます。

中家住宅は、昭和39年（1964年）に国の重要文化



財に指定されました。現在、一般公開されており、入館料は無料です。

中家住宅



このほか、熊取交流センター・煉瓦館もおすすめの建物です。平成17年11月に開館したこの建物は、昭和初期に建設された綿布工場を保存再生したもので、「東洋のマンチェスター・大阪」の記憶を後世に伝える歴史文化遺産です。外観は綿布工場の煉瓦壁を活かして当時の雰囲気そのまま残し、日が沈むと、外灯によって美しい煉瓦色が夕闇に浮かび上がります。

歴史的にも貴重な産業遺産は、平成18年に「大阪まちなみ賞」（知事賞）を、平成19年に経済産業省の「近代化産業遺産」の認定を受けました。

煉瓦館には、藍染めの工房、本格的なレストラン、既存のレンガ壁を活かした壁面ギャラリーやパーティー会場にも利用される多目的ホール、また地場

## 煉瓦館



産品のショップなどがあり、文化芸術活動や歴史体験学習の場として年間10万人の方が来館します。中家住宅とともに、「歴史と交流の拠点」として親しまれています。

歴史や文化を大切にされているんですね。

ところで、熊取町では、だんじり祭りが有名ですね。

はい。熊取町のだんじり祭りは、少なくとも160年以上の歴史をもち、地域の人々によって現代まで受け継がれてきました。熊取町には11台のだんじりがあり、10月の祭りの日には、それぞれが勇姿を競い合います。

だんじり祭りは土曜日から日曜日にわたっておこなわれます。土曜日には宮入があり、11台のだんじりが大森神社で豊作祈願の祈祷を受けます。日曜日にはだんじりを町中で曳き回し、熊取駅前を中心としたパレードが行われます。

だんじり祭りでは、だんじりの中で笛や太鼓による「だんじりばやし」が奏でられ、屋根の上では大工方がだんじりばやしにあわせて軽妙な舞を踊ります。

だんじり祭りの一番の見所は、スピードを落とさずに曲がり角をきれいに疾走する「やりまわし」です。やりまわしでは、前てこと後てこがぴったりと息を合わせて勢いよく曲がります。全力で走りながらのやりまわしのスリルと興奮、そして、約4tものだんじりをきれいに疾走させる役割分担とチームワークがみどころです。

## だんじり祭り



また、夜にはだんじりに提灯が灯され、暗闇の中でだんじりがゆっくりと進みます。その様子は、昼の豪壮さとうってかわった優雅な風景です。

勇壮なだけでなく、優雅な一面もあるんですね。

また熊取町では、太極拳が盛んだそうですね。

はい。熊取町では、世界武術選手権大会のチャンピオンで、太極拳の指導者でもある渡邊俊哉、陳静夫妻による「陳静武術太極拳研究会」を中心に、太極拳の普及活動が行われています。

中国の伝統武術のひとつで、形の正確などを競う太極拳は、男女や年齢を問わず参加することができます。多くの愛好団体がひまわりドーム（総合体育館）、老人憩いの家等で活発なサークル活動を行うなど、たくさんの人が太極拳に参加しており、町内に広く普及しています。まさに「太極拳のまち“くまとり”」ということができるといえるでしょう。

## 太極拳フェスティバル



毎年秋には「太極拳フェスティバル」が行われ、町内太極拳サークル等のみなさんによる集団演武、表演、世界武術選手権金メダリスト渡邊俊哉先生の模範演武披露などが行われます。

また、この平成21年8月には「第1回大阪府ジュニア武術太極拳大会・第1回中国伝統武術近畿交流大会」がひまわりドームで開催される予定です。

まちぐるみで太極拳を推進してるんですね。

ところで、熊取町には、イベントなどに登場するマスコットキャラクターがいるんですね。

はい。“熊取”にちなんで“熊”をモチーフとしたジャンプ君です。元気で明るいジャンプ君が、文字

## ジャンプ君



どおり“未来”に向かって大きくジャンプする姿を表しているところから名づけられました。ジャンプ君は、もともと昭和61年の町制施行35周年記念事業のマスコットとして登場しましたが、平成8年に、町内在住のデザイナーのご協力によりデザインを一新し、現在の姿に生まれかわりました。ジャンプ君には広報くまとりや各種広報物で会うことができます。また、ジャンプ君の着ぐるみもあり、毎年3月に行われる「くまとりロードレース」(ランニング大会)や「太極拳フェスティバル」などのイベントに登場します。

未来に向かってジャンプする熊取町のシンボル、ということなのですね。

では、未来へ向かう熊取町の、まちの将来像を教えてください。

はい。熊取町では平成21年3月に「熊取町第3次総合計画」を策定し、これまでめざしてきた将来像である、「ひと」と“自然”にやさしい『健康文化都市』を継承発展しつつ、「みんなが主役『やすらぎと健康文化のまち』」を新たなまちの将来像としました。

これからのまちづくりでは、豊かな自然環境や学園文化都市といった地域固有の資源を生かした取組みを拡充していくとともに、行政、住民、コミュニティ組織、企業など、「みんな」が主役となり、すべての‘ちから’を結集する協働・参画の取り組みが重要だと考えています。

次代のまちづくりのキーワードは、協働ということなのですね。

それでは、まちづくりの具体的なイメージについて、詳しく教えていただけますか。

はい。熊取町では、みんなが「主役」となって活動する5つの“拠点”と、やすらぎと健康文化のまちをささえる4つの“ネットワーク”を中心に、特色あるソフト施策を積極的に展開しながら、まちの個性をさらに輝かせる持続可能なまちづくりをめざしています。

拠点は、町役場周辺の「協働のまちづくりの拠点」を中核に、「出会いとにぎわいの拠点」、「歴史と交流の拠点」、「スポーツ・健康の拠点」、「自然緑地拠点」の5つです。先程ご紹介した中家住宅や煉瓦館などは「歴史と交流の拠点」にあたります。

ネットワークは、「子育て支援のネットワーク」、「安全・安心づくりのネットワーク」、「緑と憩いのネ

ットワーク」、「大学とのまちづくりのネットワーク」の4つです。

例えば、「安全・安心づくりのネットワーク」は、安全で安心して暮らせるまちづくりをめざし、住民と行政とが連携して地域全体で防犯・防災に取り組んでいくネットワークです。現在、「安全パトロール隊」による地域パトロールの実施や、「子ども見まもり隊」などのボランティア活動が展開されています。これらの活動との連携により、子どもの登下校時の安全確保など、さまざまな防犯対策に努めています。



子ども見まもり隊の活動



安全パトロール隊の活動

また、「大学とのまちづくりのネットワーク」は、住民や行政などが大学などとの交流活動を積極的に展開し、学術研究の成果を広く地域に還元する学園文化都市のネットワークです。優れた人的資源を活用し、住民の生涯学習の場となる「熊取ゆうゆう大学」の開学をはじめ、実験所を核とした「熊取アトムサイエンスパーク構想」の実現への取り組みなど、多様な施策・事業を展開しているところです。

住民の自主的な活動等との連携が、次代のまちづくりにおいて重要なですね。

最後になりますが、今後の抱負を教えてください。

はい。かけがえのない「みんな」の‘ちから’で、まちの個性をさらに輝かせる持続可能なまちづくりを展開していきます。さらに、くまとりらしさにあふれ、日常の生活で「やすらぎ」が感じられる定住魅力のあるまちをめざしていきます。

「みんなが主役『やすらぎと健康文化のまち』」のいっそうの躍進を期待しております。

本日はお忙しいところ、ありがとうございました。

ありがとうございました。